

公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市水の公園福島潟 水の駅「ビュー福島潟」、潟来亭、キャンプ場			
管理者名	福島潟みらい連合	指定期間	平成31年4月1日	～ 令和6年3月31日
担当課	新潟市北区産業振興課			
所在地	水の駅「ビュー福島潟」：新潟市北区前新田乙493番地、潟来亭及びキャンプ場：新潟市北区新鼻乙11番地1			
根拠法令	都市公園法			
設置条例	新潟市都市公園条例			
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ○水の駅「ビュー福島潟」 延床面積2,607.74㎡／鉄骨・鉄筋造、地下1階地上7階建／管理棟／平成9年7月設置 ○潟来亭 延床面積138.29㎡／木造平屋建／集会所・休憩所／平成9年3月設置 ○キャンプ場 敷地面積4,000.00㎡／芝生、炊事場1棟、釜戸4基／キャンプ場／平成9年3月設置 			

施設設置目的	
○水の駅「ビュー福島潟」	自然保護と地域文化の伝承及び新たな文化の創造を目指す自然文化の情報発信施設として水の公園福島潟の中心的な役割を担う。また、博物館的機能や美術館的機能を兼ね備えた施設でもある。
○潟来亭	潟端の昔の民家を再現した建物で、潟の歴史や生活様式を感じながら人と人の交流の場・休憩の場を提供する。
○キャンプ場	キャンプ場は、水の公園福島潟の宿泊スペースとして利用し、キャンプをとおして自然を体感する場所を提供する。
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1 基本理念	市民と指定管理者そして行政が協働・連携して、水と土の象徴である「福島潟」を保全・復元し、自然保護を行い、市民のふれあいの場、学習の場そして活動の場を提供し、地域文化の伝承と新たな文化を創造する「自然文化」を推進する。
2 管理運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ①市民の福島潟に対する意思を十分に尊重するとともに、市民と行政と協働・連携を図り効率的な事業の運営を行うものとする。 ②「地域づくり」、「人と自然の共生」、「環境保全」を更に進め、豊かな福島潟を後世に継承していくものとする。 ③各施設の機能や設置目的を理解し、適正な管理運営を行い、その効果を最大限に発揮させるよう努力するものとする。 ④業務全般について、計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、業務仕様書に示す業務を適切な進捗管理を行い効率的かつ効果的な管理運営を行うものとする。 ⑤入館者及び施設使用者の意見を反映させサービス向上を図ると共に、平等利用に努めるものとする。 ⑥施設の管理運営経費の削減に努めるものとする。
3 実施事業	<p>福島潟の自然文化に資するため次の事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①福島潟の自然保護の普及及び啓発に関すること (環境学習等に係る学校案内等、企画事業、環境保全事業 等) ②福島潟の自然及び文化に関する情報の収集及び提供に関すること (自然情報や地域文化の情報収集、ホームページ等での情報提供、民具等の展示 等) ③福島潟の希少な動植物の保護及び育成に関すること (オニバスやオオヒンクイ等保護育成 等) ④市民が行う福島潟の自然又は文化に関する活動の支援に関すること (各市民団体が行うイベント協力等の活動支援、ボランティアの受け入れ環境の整備 等)

令和3年度

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	施設入館者数	水の駅「ビュー福島潟」入館者数(1階カウンター)年間71,000人 有料入館者数年間15000人	1階カウンター 年間73,257人 昨年比116.3% 有料入館者数 年間16,895人 昨年比127.0%	A	新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、前年度を上回る来館者があり、影響を考慮した指標は、上回ることができた。
	企画展の実施	年9回	年10回	B	
	各種サービス満足度	利用者アンケートの実施で満足度が70%以上	「満足」と「大いに満足」を合わせると95%	A	指標を大きく上回った。
	苦情・要望に対する対応	苦情・要望には5営業日以内に回答	苦情・要望については5営業日以内に適切に対応した。	B	
	自主事業の実施	設置目的に合致した自主事業の実施	1階ショップ、3階喫茶まこもの運営 イベントは菓の花テントは4/1～29の土日祝のうち5日間実施できた、4館連携のスタンプラリー(5/1～8/29)、夕方コンサート(オンラインライブ2回、6Fホール1回)、福島潟マルシェ(秋)、交流集会等合計10イベントの実施であった	B	
財 務	運営経費の削減	管理運営経費を指定管理料年度協定額以下	施設・機材の老朽化により修繕工事費や機材のメンテナンス費用が増加している。光熱費の抑制、ローコスト意識の浸透による消耗品費抑制により、経費は指定管理料年度協定額以下。	B	
	適正な財政運営、財務管理	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行、収支状況記録の適正な管理	適正な記録・管理を行った。	B	
業 務	事業の適正な実施	業務仕様書等に定める事業の実施及び遵守と業務マニュアルの作成	業務仕様書に定める事業を適正に行った	B	
	福島潟の自然環境に関する普及啓発	環境学習等案内60回以上、各種体験講座、観察会20回以上	環境学習等案内 57回、うち学校案内 40回。職場体験 1校、インターシップ1校、各種観察会 24回 201名実施。	C	新型コロナウイルス感染症などの影響により、指標を下回った。
	福島潟の自然文化に関する情報の収集及び提供	自然情報の収集週1回以上、地元学イベントの開催、ホームページ等の更新200回以上	自然情報の収集は週2回以上。地元学第21弾は「潟のごっつお展」を実施。ホームページ更新は78回、Facebookは水の駅「ビュー福島潟」144回とクイックイ5回の発信。合計227回。	A	指標を大きく上回った。
	希少な動植物の保護及び育成	オオヒシクイやオニバス等の調査、啓発活動随時、希少な動植物に関わるイベント30回	オオヒシクイ調査24回、オオヒシクイ案内所5回、オニバス案内所 11回、希少植物保護活動イベント3回(シンポジウム、企画展、交流集会)合計43回	A	新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、指標を大幅に上回る活動を行った。
	市民が行う自然文化活動の支援・協働・連携	通年で良好な対応、市民団体が行う活動の支援や連携イベント20回以上	ねつとわく福島潟、ヨシあし和紙の会、染めの会、鳥彫会、めぐみの会、潟舟の会、ときびく隊等の活動支援48回。連携イベント10回。	C	新型コロナウイルス感染症などの影響により、連携イベント回数が指標を下回った。
	事件・事故発生時の対応の適切さ	AED等救急機器の使用法研修を実施、事件事故時適切な対応	館内1階、潟来亭とAED2台体制で事件事故に備えている。	B	
	安心安全の確保	防災等訓練年2回、緊急連絡網と危機管理マニュアルの整備	消防訓練を月にビュー・潟来亭それぞれで実施。緊急連絡網、危機管理マニュアルを整備し緊急時に備えた。	B	
	配置人員のミッションの理解度とスキルの習得度	職員研修を年2回以上実施	職員研修会は12月に「感染症対策」に関して実施。例年行っている他施設見学はコロナ感染を考慮し行わなかった。	C	新型コロナウイルス感染症などの影響により、指標を下回った。
人 材	自然指導員人材育成	自然系専門知識習得の職場内研修等を年4回以上実施	自然系専門知識習得のための職場内研修はOJT教育を基本とし現場に即した活きた教育に主眼をおき6回実施した。	A	指標を上回る研修を行った。
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	労働関係法令を遵守し労務管理を行った	B	

【評価基準】

A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている

B: 要求水準(評価指標)が達成されている

C: 要求水準(評価指標)が達成されていない

※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください。)

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

・入館者数については1階カウンター数が73,257人(昨年63,006人ー昨年87,985人)で昨年比116.3%、有料入館者数は16,895人(昨年13,307人ー昨年21,430人)で昨年対比127.0%であった。9月3日～9月16日の14日間がコロナウイルス感染対策で臨時休館となり、さらに「福島潟自然文化祭」も中止となった。昨年と比べ個人客、学校関係はだいぶ戻ってきているが、一般団体客は少ない状態が続いている。

・イベント関係では「観察会」は定員を絞って実施している。「案内所」は密集しないように注意し実施。「名誉館長事業」も定員を半減し実施。「雁ばり隊」は2年間活動なしの状態が続いたが来年度は形を変えて再出発していきたい。

・年間会員数の維持、拡大のため特に期限切れの会員に対してのご案内を積極的に行っていく。

・新電力への切り替えが光熱費の抑制に大きく貢献している。さらに、早朝のカーテン使用や、こまめな熱気ぬきによる温度管理も継続していく。

・ホームページ、Facebookによるタイムリーな「生」の情報発信はコロナ禍においても、福島潟の「今」を伝え、これから先の来訪者増にも寄与していくものと思う。

・飛び立ち調査、周辺調査によるオオヒシクイの越冬行動調査や希少動植物に関わる啓発活動、企業によるCSR活動への協力・連携を通じた希少種保護およびその啓発活動はコロナ後を見据えて今後も継続していきたい。

・市民団体、行政、近隣地域との協働・連携は特に力を入れてきたところであるが、環境学習対応や福島潟マルシェ、他イベントを通して、水の公園福島潟の関連5施設、近隣文化施設(豊栄図書館、北区郷土博物館)との連携をさらに強化していきたい。

所管課による総合評価(所見)

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、新しい生活様式の実践など、感染防止を図りつつ、来館者に安心して利用してもらえる工夫をし、入館者数は以前には及ばないが、回復しつつあり、イベントの実施回数も昨年を上回り、福島潟で活動を行う市民団体への支援を多数行っており、良好な関係を維持している。

施設管理において、光熱水費の抑制など、常にローコストを意識しての運営がなされている。

福島潟の魅力をいろいろな媒体を活用して情報発信を行い、来訪者数の増加を図るとともに、福島潟自然文化基金の年間会員数の増加にかかる取り組みにも期待する。